



EQUIOS

User Report : 株式会社眞興社

印刷工程の全てを自動化し、 「最後は年商一人10～15億円の印刷会社経営」を

株式会社眞興社は大正8（1919）年に創業し、1927年に現在地へ移転。以降、「学術書の印刷を通して社会に貢献したい」との思いを胸に、医学書、工学書などの専門書を世に送り出してきた。この間、印刷企業経営の三原則「安い、早い、きれい」を徹底追求。1990年代の半ばからは「印刷機単体の合理化は、もう終わり。近いうちに全工程をネットワークでつなぎ、自動化していく時代になる」（福田眞太郎社長）と考え、たゆまぬ努力を重ねながら独自の生産管理システムを構築。2012年にEQUIOS Online、2015年にはEQUIOSを導入し、自動化・効率化をさらに進化させた。目指すは「受注活動以外の全てを自動化する」ことだ。



代表取締役社長
福田 眞太郎 氏

プロセス自動化技術が評価され、 「CIPPIアワード」で2部門を受賞

眞興社は、医学書・工学書などの出版印刷の制作が売上高の9割近くを占める。こうした学術書印刷は、受注から納品までの期間が長く、多品種小ロットの仕事が圧倒的に多いことが特徴だ。しかも医学書は、万が一間違いがあると患者の命に関わる恐れがあるため、高い印刷精度と厳しい校正が要求される。

これらに対応するため、同社では早く



から「デジタル化」をキーワードに業務改革に取り組んできた。その結果、CIP4 Organizationが主催する2009年度の「ユルゲン・シェーンハットメモリアル国際印刷生産革新賞(CIPPIアワード)」において、“プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例部門”と“最優秀プロセス自動化の導入事例—アジア・パシフィック地域”の2部門を受賞。国内企業で同賞を受賞したのは初めてのことだった。

それ以降も引き続き業務改革を進め、生産設備と管理システムの統合化ワークフローを構築。自社内の全業務の進捗状況や装置の稼働状況、トラブルの発生状況とその原因などが、いつでも、どこからでも把握できるようになった。また、生産現場から離れた場所からでも直接、作業指示を出せるようになり、作業効率は大大幅に向上した。

しかし、校正確認作業のために顧客と何度もやりとりする状況は変えられなかった。営業工数がかかり過ぎていた上、差

し替え間違いなどの事故も発生するなど、校正フローの見直しが必要となった。

「校正というのは、要は積み重ね。お客さまは、一度見たら同じものはもう二度と見たくない。それなのに、“何回見せるのだ”という不満がありました。また、以前は出版社の担当者だけが校正を見て、著者にはゲラプリンターで出したものをお見せしていたこともあり、刷り上がった後で著者から“こんなはずではなかった”というクレームを受けることが、しばしばありました。それなら、初校からRIP済みのデータをお見せしようということで、Webでのデータ入稿やオンライン校正システムを検討することになりました」と福田社長。

眞興社では、早くからTrueflowを使ってきたこともあり、Trueflowと連動し、安定稼働が可能なEQUIOS Onlineを検討。顧客と社内の制作・製版工程をシームレスにつなぎ、ミス・ロスのないフローを構築できることを評価し、2012年にEQUIOS Onlineを導入した。

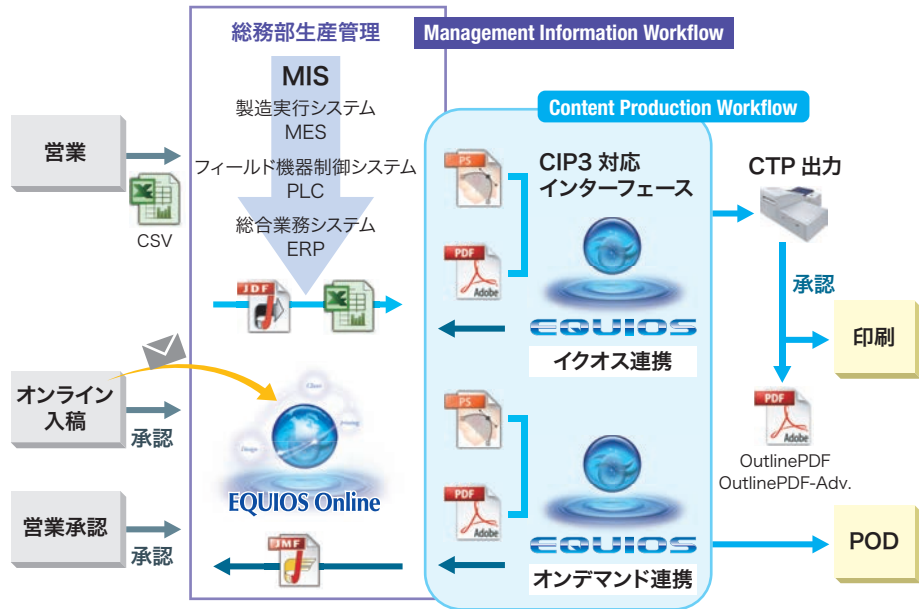
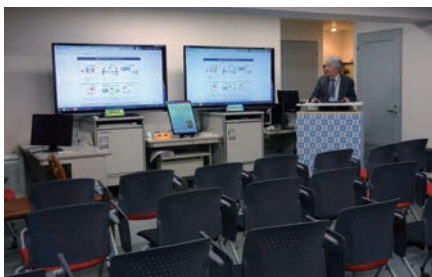
想定外の大成果 オンライン校正で新規受注を獲得

導入後、まずは社内でEQUIOS Onlineが持つ優れた機能を共有しようと、営業・制作部門をはじめとする社員向けに勉強会を開催。早速、自社内での制作データの内校検版に使用するなど、順調な滑り出しとなった。

現在、自社内の内校検版としては全品EQUIOS Onlineを活用しているが、オンライン校正を行っている顧客は、まだ5～6社に過ぎない。そのため、福田社長が自らオペレーションガイドなど独自のマニュアルを作成し、客先に出向いてEQUIOS Onlineのデモンストレーションを行い、オンライン校正の普及を図っている。また、同社のプレゼンルームに顧客を招き、新生産管理システムを紹介するとともに、オンライン校正による顧客サイドのメリットなども分かりやすく説明している。

すでにオンラインでやりとりしている顧客からは、「いつでも校正確認ができるようになった」「校正時間を短縮できた」と好感を持って迎えられている。校正フローが効率化され、差し替え間違いといった事故も削減でき、さらにオンライン校正によって、当初想定していなかった新規受注も獲得できた。

また同社では、企画・編集、制作、製版・印刷の3分野のうち、EQUIOS Onlineを導入するまでは製版・印刷の売上げが全体の70～80%を占めていたが、今ではほぼ3分の1ずつ。バランスが良くなり、川上の工程を強化できたことで、付加価値が高く、顧客満足度の高い印刷物を提供できるようになった。福田社長は、これもEQUIOS Onlineの導入効果だと言う。



自動化・効率化の 究極の姿が見えてきた

眞興社では、EQUIOS Onlineのバージョンアップと併せて2015年にEQUIOSを導入し、CTP出力はもちろん、トナーPODとの連携出力などにより、大ロットから小ロットまでの多種多様な印刷物の短納期対応を実現した。

「EQUIOSは、CTPとPODで同様の出力結果が得られるので、安心して運用できます。オンデマンド機を5台持っている当社にとって、オンデマンド連携で安定した品質を出せることが、EQUIOSの最大のメリットとっていいかもしれません」（福田社長）

同社では2016年現在、査読システム、オンライン校正、電子書籍販売など、Webを活用したシステム展開を図っているが、これからWebシステムをさらに充実させ、クライアントへのサービスを拡充していく予定だ。さらに、福田社長は壮大な未来像を展望している。

「EQUIOSをセンターRIPと位置付け、DTPからCTP、印刷、製本まで全ての印刷プロセスを自動化・見える化する。そしてMISとの連携によって、ジョブの進行状況や面付け結果、CTP版の出力状況などはもちろん売上状況まで、リアルタイムな生産工程の把握と原価管理ができるよ

うにしたい。私は前々から、インターネットを通して企画・編集から校正、制作、印刷、製本に至るまでを完全自動化すると言ってきましたが、EQUIOSを活用してみて、そういった形がいよいよ目に見えてきたように感じています」と福田社長は語る。

無駄のない製造体制、収益性の高いビジネスモデルを構築するために、同社が提供するあらゆる製品、製造工程をインターネットでつないで工程全体の効率化を図り、同時に、ダウンタイムを最小限に食い止め、ミス・ロス、生産ログをリアルタイムで記録する新しい仕組みをつくり上げていく。こうして出版社側のコストダウンにまで貢献し、最終的には一人当たり年商10～15億円の印刷会社を運営できるようにする。これこそが、福田社長の求める究極のテーマだ。



株式会社眞興社

住所 東京都渋谷区猿楽町19-2
代表者 代表取締役社長 福田 真太郎
創業 1919年
社員数 50人
<http://www.shinkousha.co.jp/>

SCREEN

株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマタネ深川1号館
<http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店 / 03(5621)8266(代) 大阪支店 / 06(6531)0333(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 075(326)1350(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)
四国営業所 / 087(837)8151(代)

株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ

本社 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
<http://www.screen.co.jp/gp>

※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。